

地震発生！家の中の安全対策

No. 2

防災ひとくちメモ

防災安全課
内線272

家具の転倒・落下でけがをするだけでなく、倒れた家具で部屋の出入り口や廊下がふさがれ、避難することが困難になります。日ごろから家具を固定したり、配置を考えたりして地震に備えましょう。

家具の固定方法

スーパーなどで売っている市販の金具を使えば家具をしっかりと固定することができます。壁や柱、かもいにねじくぎを打ち込み、金具や鎖、

掛け金を付けましょう。
「激しい揺れで冷蔵庫が動いた」「テレビが真横に飛んできた」との話を聞きます。
たんすや本棚、大型電気製品も固定し、棚の上には重い物や割れやすい物を置かないようにします。食器棚の中の物が飛び出さないように、

阪神淡路大震災では、多くの人が家の中でけがをしました。神戸市防災局によりますと、震災でけがをした人のうち、倒れてきた家具でけがをした人が49%、家の中で落ちてきた物でけがをした人が16%と、家の中でけがをした人が7割近くいました。
「激しい揺れで冷蔵庫が動いた」「テレビが真横に飛んできた」との話

ベルトを使って家具と固定します。この時、壁や柱の丈夫な部分に打ち込むことが大事です。壁の板が薄い場合には、裏側に補強の柱が入っている部分を探して打ってください。
(社)美濃加茂市シルバー人材センター(電話25・0710)でも行っています。



男女共同参画⑦

変化を認める

「変わっていくものを見つめる勇氣」。
このお話の一つ目と四つ目の勇氣を持てば、環境が変わって悩んでいる人も、新たな人を受け入れて戸惑っている人も、その変化を受け入れることができるのではないだろうか。さらに、それぞれがお互いを認め合うことができれば、また新たにすてきな環境ができていくのかもしれません。

「高齢社会をよくなる女性の会」で活躍して見える樋口恵子さんが、ある男女共同参画講演会で四つの勇氣を持つことが大切と話されたことがあります。一つ目は「変えるべきものを変える勇氣」、二つ目は「人間の力では変えることのできないものを受け入れる冷静さ」、三つ目は「この二つを取り違えない英知」、そして四つ目は、自ら変わっていくことができない人に対し、

「でも、もしかしたら、人によってはこの環境の変化についていけなくて悩み、苦しむ人もいるかもしれません。また、新たな人を受け入れることで、今までの環境から大きく変わってしまい、どんな対応をしていいか戸惑っている人もいるかもしれません」。

4月は進学、就職、異動、退職など人々の動きが多く、慌ただしい時期ですが、5月に入り、多くの人が環境の変化に慣れ、気分が少しは落ち着き、周りが見えてくる時期ではないでしょうか。

シリーズ

『男と女』